

特別支援教育推進通信

わかる授業づくり(授業のユニバーサルデザイン)

平成29年3月に公示された新しい学習指導要領の各教科の解説には、各教科等において学習活動を行う場合に生じる困難さが異なることに留意し、個々の児童生徒の困難さに応じた指導内容や指導方法を工夫することと示されました。例えば、小学校国語科における配慮としては、例として次のようなこと書かれています。

小学校国語科の配慮例

- 文章を目で追いながら音読することが困難な場合には、自分がどこを読むのか分かるように教科書の文を指等で押さえながら読むよう促すこと、行間を空けるため拡大コピーをしたものを用意すること、語のまとまりや区切りが分かるように分かち書きされたものを用意すること、読む部分だけが見える自助具（スリット等）を活用することなどの配慮をする。

千葉県でも上記の配慮については、『ユニバーサルデザインの考え方に学ぶ どの子ども「わかる」「できる」をめざす支援の工夫 ヒント集（平成27年度）』[冊子①]や『合理的配慮事例集～小中学校の通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある児童生徒の事例を中心に～（平成29年度）』[冊子②]の中でも取り上げられています。

冊子①については千葉県総合教育センター、冊子②については千葉県教育委員会の各ホームページから、それぞれ閲覧・ダウンロードができます。ぜひ、ご活用ください。



少しずつ変わってきた教室環境



以前の教室は、学級ごとに色鮮やかに装飾された掲示物や各行事での思い出の写真、そして子ども達の作品などが掲示されていました。しかし、「ユニバーサルデザイン」という言葉が、教育現場でも広く聞かれるようになってからは、多くの学校が左のイラストのように教室前面の掲示物を必要最低限にするという取組を行っています。

これは、視界に入る刺激を少なくして、黒板からの情報を得やすくしようということを目的に行われるユニバーサルデザインです。これを基本に、更に黒板脇にあるロッカーやテレビ、時間割にカーテンをかけて、より黒板に集中しやすくなるようにしている学校も増えてきています。

このように「どのようにしたら、どの子どもわかる・できる」に繋がるかを考えていくことを学校全体で考えていくことが大切です。

どのように考えますか？

<ケース1>

教室前面は学校で統一してスッキリしているのに、授業に集中しにくい子どもがいる。

黒板に集中できない場合には、他に集中しにくい環境がないか確認をします。

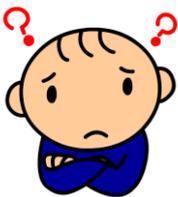
○ 確認してみましょう	
・ 必要のない教科の掲示物はありませんか	<input type="checkbox"/>
・ 教室側面の状況はどうか	<input type="checkbox"/>
・ 黒板前の教卓に教材が山積みになっていませんか	<input type="checkbox"/>
・ 子どもの机の上に不要なものが置かれていませんか	<input type="checkbox"/>



- ◇ 黒板以外に掲示するために教室前方の入口にワイヤーが張られている場合もあります。前時に学習して内容を子ども達のためと思い、掲示したままにしていますか。必要な時に、必要なものだけを掲示する意識を持ちましょう。
- ◇ ロッカーが側面にある場合もあります。ロッカーの中にあるものやロッカーの上に置かれている教科書やファイルなどが、気になる場合もあります。カーテンで目隠しをしたり、その子どもの座席の位置を中央寄りにしたりしてみましょう。
- ◇ 黒板の前にもものが置かれていると「何が置かれているのかな」と気になります。学校によっては、背の低い児童机を教卓の代わりにしていたり、教卓を正面からずらしたりして、子ども達の視界に入りやすくしています。
- ◇ 活動に必要な物があると、それらが気になって話を聞くことが難しくなってしまう場合もあります。必要な時に、必要な物だけを出すことで、集中しやすく、広く、活動のしやすい机の上にしましょう。

<ケース2>

ケース1のように考えられる教室環境の整備は行ったのに、まだ集中できなかつたり、活動への取り掛かりが遅かつたりする。



○ 確認してみましょう	
・ 周りの子どもから刺激を受けていませんか	<input type="checkbox"/>
・ 板書の文字の大きさは見やすいですか	<input type="checkbox"/>
・ 話し方が早口になっていませんか	<input type="checkbox"/>
・ 同時に多くの情報を提示していませんか	<input type="checkbox"/>

- ◇ 教室には多くの生徒がいます。視界に入る他の子どもの動きに気が取られてしまうこともあります。逆に周りの子どもの様子から情報を得る場合もあります。子どもの実態に応じて、適した座席を考えてみましょう。
- ◇ 「見たいけど見えない」や「聞きたいけど聞き取れない」という状況では、周りと同じように活動することが難しくなります。また、多くの情報を提示することで、どれに集中して良いのか分からないという状況になってしまうこともあります。
板書している文字の大きさを教室の後ろから確認したり、普段よりも少しゆっくりと話すということを心がけたりしましょう。